

## 第7期町田市民文学館運営協議会第3回議事録

- 開催日時 2025年12月16日(火) 18:00～20:00
- 開催場所 町田市民文学館 2階大会議室
- 出席委員 会長 渡邊正彦  
副会長 若宮和男  
委員 岩崎 修  
委員 卜部敦彦  
委員 冠那菜奈  
委員 草刈大介  
委員 名取玲子  
委員 渡辺祐真
- 欠席委員 委員 中垣理子
- 事務局出席職員  
市民文学館担当課長 羽生謙五  
担当係長 荒井敬介  
担当係長(学芸員) 神林由貴子  
主任(学芸員) 山端 穂  
主任(学芸員) 谷口朋子
- 資料  
資料1 文学館に関する主な出来事について(6月26日～12月14日)  
資料2 2025年度前半期事業報告(4月～9月)  
資料3 2026年度年間展示計画  
資料4 2026年教育普及事業プログラム(案)  
資料5 大規模修繕時の事業展開  
資料6 市民協働事業の変遷  
資料7 文学館まつり、文ッ字フリマ参加者数の変化  
資料8 市民研究員制度の変遷

## ○ 次第

### 議事

#### 1 事務局からの報告

(1) 文学館に関する主な事項について(6月26日~12月14日)

(2) 2025年度上半期事業報告

【事務局】資料1、資料2について説明

【会長】前回の運営協議会から本日までの文学館の活動報告について質問・意見ををお願いします

【委員】2024年度と2025年度の上半期を比較した時に、観覧者の増減の要因はなにか

【事務局】昨年は『チリとチリ展』を開催し過去最高の観覧者数でした。今年はフルーツをテーマにしたテーマ展を開催しました。当初目標8,000人、期待値で10,000人を基準にしておりますので、前年と比較すると減少が目につきますが、まずまずの結果だったと考えています

<委員>

【委員】SNSを強化しようとしている中でポスト数が減った要因はなにか。

【事務局】今年の4月から担当替えがありまして、広報担当が変わったためです。ポストする内容については大きく変化がありませんが、ポスト数が大幅に減少し、それに伴いインプレッションなどお客様の反応が大幅に減少してしまいました。

【委員】お客様の反応はコントロールできないが投稿をポストすることはできる。やるのであればルーティーンでポストを続ける事が大事。

【事務局】一方で文学館のアカウントで広告記事を出稿することができるようになったためInstagramのフォロワーが飛躍的に増加しました。

【委員】Youtubeも大きく減少していますが

【事務局】コロナ禍では、リソースを動画制作に回すことができたが、通常事業が復活していく中で新しい動画を制作することができなくなってきました。2025年は新規動画が1本という状況なので、動画の視聴回数も大きく減少しています。

【委員】会議室の利用はコロナ以降回復していないと聞いていましたが、利用者が戻った要因はなにか。

【事務局】町田駅前にある生涯学習センターが大規模修繕で休館しているため利用者が流れて来ているためです。2026年1月から再開されるので、その後、ど

の程度減少するかは注視していく必要があります。

## 2 2026年度事業計画について、大規模修繕時の事業について

【事務局】資料3、資料4、資料5について説明

【会 長】大規模修繕の予定はいかがですか

【事務局】2026年の10月から2027年12月までを予定しております。再開は2028年1月からになると考えています。

【委 員】文学館以外の会場で実施した講座や講演会などを町田市のYoutubeで流すことはできますか。

【事務局】できますが、動画にはフルテロップが必要なので、イベントの動画をupするのは現実的ではありません。町田市のYoutubeは2～3分の動画を推奨していて、そもそもイベントの映像を丸々upすることは考慮されていません。

【委 員】なぜ、フルテロップが必要なのですか。

【事務局】公共のYoutubeなので耳の聴こえない方にも内容が届くようにするためだと思います。

【委 員】休館時になにをするのかではなく、リニューアルオープン時に向けてプログラムを考えていく方が分かりやすいし、伝わりやすいのではないか。大変なのは分かりますが、オンラインで配信をしていくのが、最も有意義なのではないか。

【委 員】資料整理云々も分かるのですが、色々な情報をカジュアルに発信していかないと、まず見られない。デジタルミュージアムは正直、制作しても見られないと思います。それよりも何らかの活動、そこでしか見ることができないライブなもの、そうしたものが後に繋がるのはでないかと思いました。

【委 員】ニコニコ動画で美術評論家の橋本マリさんが案内役になって実際に訪れた美術館を紹介している。これは実際に足を運んでいるので、ちょっと事例としては適切ではないんだけど、デジタルミュージアムではなく、今日はこれをやりますとかこういう人を呼びますとか。その時にちゃんと見てもらえるのが良いと思います。

【委 員】町田駅前周辺コラボについて具体的な施策や考えはありますか。

【事務局】まだ具体的な施策はありません。町田駅前の公共文化施設、公園、民間商業施設との連携を考えています。

【委 員】デジタルで配信していくのがひとつの方法であると思います。町田駅周辺は人の流れが多く、そういう場所だからできること、今までことばらんどを

知らない方にもアピールできる場になるんじゃないか。そのためには、その場所の作り方、アピールの仕方を考えることが必要だと思います。

【会 長】リニューアルオープン後の期待感を仰ぐことができる企画がいいですね。コロナ禍の時に色々とチャレンジした経験から、これはといったものはありませんか。

【事務局】Youtube を使った動画配信ですかね。また、SNS (X、Instagram) でも、今はショート動画 (リール) を up できるようになっていて、コロナ禍に比べて可能性は広がったと考えています。単独で up するのではなく、各々の動画を繋げていく発想も必要だと考えています。動画については、今ちょうど、サニーデイ・サービス曾我部恵一展で、曾我部さんが展示準備をしている動画が Instagram に掲載されています。ですから、町田市の基準ですとか色々ありますがその中でもできることはあるので、そうしたできるものを 1 個ずつやっていくというのが現実的だと考えています。

【委 員】そこの戦略が大事で、リニューアルで大きく変わらないとした時に大リニューアルといった出し方が出来なかったとしても、閉まっている間に繋げていこうとすることはできると思います。SNS で大事なのは 1 つバズったからどうだけではなく、継続的に雑談をストックしていく発想、そうした発想を持たないといけないと思います。その中で作家やアーティストが出演するコンテンツが強いですよ。1 桁大きいじゃないですか。ですから、これまで文学館の事業に参加していただいた方に閉館期間コンテンツを出していただいて間を繋ぐというのはできると思います。そうすると、閉館期間も Instagram の中で新しいファンが獲得できて、はまっていく。その関係性と循環をつくっていくというのをやれるタイミングかなと思います。

【委 員】最初に広報戦略と言っていたものを、きちんと振り返り選択と集中をした方がいいと思います。僕らスタートアップからするとポストすればいいものをしていない。そんなことは本来ありえないと思うんです。もし、色々手をつけすぎてやれないのであれば、結果を見て注力するものを決めてやり切った方がいい。その上で、SNS だけでなく展覧会もそうですけど、あの評価が良かったとかリアクションが多かったとか、閉館期間にしっかり分析して、選択と集中を戦略にしていくことをやった方がいいと思います。そう言う意味で凄く良いタイミングというか、ポジティブなタイミングになりそうです。

【委 員】先程通年でと言ったのは、動画を出していく中で、再開までのカウントダウンをしていくと良いと思います。そうすると動画を見た人が文学館が休館

中ということと、期待感を持って再開を待っていただくことで存在感がでるのではないかと思います。

【委員】リニューアルが終わった後に戻ってきて貰えること、存在感を持続すること、休館期間中を利用して更にことばらんどに親しんでもらうことというのを、せっかく1年半の時間があるので、ネットとそれから町田に住んでいてことばらんどを利用してきている人がたくさんいると思うんです。ですから、ネットとリアルな空間の両輪でやっていく、そこにリニューアルオープンまでの時限を伝えていくことがとても重要だと思います。町田駅周辺の書店等との連携企画ですが、地域に密着している本屋さん、例えば久美堂などにチラシ等を展開させて貰うと良いのではないのでしょうか。そのことをInstagramにupするとかQRで情報を随時出していく、今工事中で、このタイミングでやるんだとか、経過が伝わると、とってもいいし忘れられないし、何だったらもっとイメージが良くなってくるんじゃないかと思います。

【会長】ここまでは文学館の情報をどのように発信するかの議論をしています。これまでの関係者や市民の皆さんの情報をどうやってこちらの方に出してもらうかっていうような発想もあると思いますね。コロナ禍の時の「ことばの木」のような企画があると、関係者やお客様とのつながりを維持していけるように思います。

### 3 曾我部恵一展鑑賞

#### 4 市民協働・市民の自己実現を支える事業展開とはなにか

【事務局】資料6、資料7、資料8、参考資料1について説明

【会長】これは別紙で生涯学習について言われてますが、文学館にはなにかができるのかという意味合いでよろしいですか。

【事務局】市民協働事業の難しい点は、講座や講演会の様に当館がすべてのお膳立てをして講師が参加者の方に対して講義をするというのではなく、市民の方が文学館という場所や施設、文学館が所蔵している資料を使って自己実現につなげていくという理念は分かるんですが、具体的に実施するとなった時に、最後の形にもっていくのが難しいというのが大きな問題です。

【会長】生涯学習というと、どうしても高齢者対象に感じられるかもしれませんが、小学生や一般の方も巻き込んでいけるような、そう言うところがあると思います。

【委員】町田らしいもの、町田の文学館と言えどというものを視覚的に、シンボリックに掲げた方が良いのではないかと。 “ことばらんど” という名前ではなく、なにか町田のことばらんどと言えど、こういうことをやっている場所だとイメージできるもの。そういう外から見た時の柱をいくつか立てて、それをひたすらこすって、現代と接続していくというものが何か必要なのではないかと思います。

【会長】学校との関係で言うといかがでしょうか。

【委員】お話を聞いていて、小学校の子どもたちは文学館で何に出会えば良いのだろうと感じました。今、学校では探求学習など子どもたちが自ら興味を持って学びを深めていくようなことを先生たちも考えているのですが、本当に文学館で何と出会えばいいのだろう。多分、子どもたちが学校で学ぶ作品と結びついていくものだと思うんですが、作品に出てくる「ことば」は何なのかを調べるといったことならできるのかもしれない。インターネットで探すこともできると思いますが、どうしても子どもたちだけでは探すことが難しいし、直ぐに検索アラートに引っ掛かってしまう。そういうところをサポートしてもらえようかなという気がします。

【委員】町田にいる作家、ゆかりの作家、芸術家を私たちは知らないで、それを掘り起こしてもらおう。または、文学館の職員が町田の街に出て、実際に足を運んで、文学的なもの、芸術的なものなど私たちが興味を持ちそうなものを見つけて提示してくれるのは、私たちが結び付けるひとつになるのではないかと思います。

【会長】何かを調べてみたい、何かについて知りたいといった“きっかけ”や動機付けになるようなものが大切なのではないかと思います。

【委員】市民研究員制度、市民協働事業のメリットはなんですか。

【事務局】文学館と言う場所と館が蓄積している情報、館蔵資料が無料で提供されることです。

【委員】それが、今の活動やHPでは伝わりきれていないと感じました。ことばに関する活動をする時に、場を提供しますよとか、何か調べたい時に職員がアドバイスをしますよというメリットを明確に分かると良いのではないかと思います。

【委員】Aiが取り立たされる中で、人が介在することによる可能性の広がりはあるのではないかと。私も市民の皆さんが主役ですというプログラムをやっていた時に、兎に角お膳立てをして欲しいという人たちを違うんですと言いつけるとい

ったことがあるんですが、これがすごく難しい。ただ、それが独り立ちしはじめると達成感は凄く実現できる。ただし、すごい時間と労力がかかるし、大人の方が凄く難しい。それでも続けていただきたい気持ちはあるが、やるかどうかの判断は必要ですね。

【委員】フォーマットを決めるのが良いのではないか。フォーマットを決めるのには2つの意味がある。ひとつは展示やイベントなど内容は変わるけど、フォーマットは変わらずに繋がっていくという印象を持たせることができる。もうひとつは、フォーマットを決めないと毎回フルオーダーメイドで事業を展開していかないといけなくなるが、フォーマットを決めておくと、この部分だけといった参画の可能性も出て、参加して貰いやすくなると思う。自由度が高すぎると動き出しづらいし、ハードルも高くなる。本当に小さなことで良いのでフォーマットを決めると内容に左右されずに継続することができる。

【会長】自由にやれと言っても、何の知識もない中で自由にできることもないわけで、要所要所でサジェストすることが必要ですね。

【委員】利用する可能性がある人は、ある程度狭めた方がいい気がします。全ての人たちが表現とか芸術とか文学に関心があるのではない、小さな子供たちは、絵本や物語を通じて関心もあるかもしれないが、ある程度の年齢になれば文字を読まないとか音楽を聴かない。小説を読まないとか、そういう人たちは確実にいる。そうじゃない人たちを連れてくることはいいと思うが、漠然と人に来てもらうってことではなくて、どこにそういう潜在的な人たちがいるのか、そこに直接情報が手渡せるようなものはなにか。その上で、ここがどういうところで、各々にとって自分の場所に成り得るのか？っていうのをしっかり打ち立てていかないと、やる事がどんどん増えちゃって大変っていうことになってしまう。

## 5 その他

【会長】それでは最後になりますが、第4回の運営協議会についてご説明いただけますか。

【館長】今後のスケジュールについてご説明いたします。次回は来年の6月を予定しており、今期運営協議会の報告書をまとめたいと考えております。今回同様、期日が近づきましたら日程調整の連絡をさせていただきたいと思っております。よろしく申し上げます。

【会長】これで終了いたします。どうもありがとうございました。